

保記念号)。

2. R. de Bruyn Ouboter and W. den Boer, Physica **98B, C** (1980) 185.

コ メ ン ト

柳 瀬 睦 男

今回の短期研究会において、議論された問題点を、やや基礎論的な立場から考えた二三の点を述べた。

- 1) 町田・並木・荒木理論(M. N. A-理論)は、観測の理論から、自意識をもつ観測者をとりのぞくことのできた点が重要である。
- 2) MNA-理論は、従来の量子力学の自然な拡張となっており、荒木氏による数学的形式化(連続超選択則)も明快である。
- 3) この理論における、マクロな系の概念は、従来の単一系の概念とことなり、多くの似通った系のあつまりの平均である。この平均操作は、確率的なものでも、統計力学的のものでもない。Zadeh により提唱された Fuzzy Concept だと思う。
- 4) MNA-理論により、又荒木氏による数学的形式を用いて、単に観測の問題を解明するための ad hoc な理論としてではなく、量子力学をもとにして、ミクロな系と、マクロな系を統一的に記述できるような一般論(並木氏によれば grand Quantum mechanics)の構成が期待できるのではないか。
- 5) 3), 4) については、今後の研究討論にまつところが多い。